

クラス番号	335	担当教員名	山口 みほ
		他専修学生受入上限人数	3名
テーマ	医療ソーシャルワークの実際から現代の医療福祉問題を考える		
著書・論文 研究課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「愛知県下の MSW 管理職による管理業務の現状と課題～管理業務研修のグループ・セッションの分析から～」2015 年</li> <li>・『社会福祉相談援助演習 ソーシャルワークの理論と実践をつなぐ』2016 年</li> <li>・『エピソードから地域に根ざした医療とケアの在り方を考える』2019 年</li> <li>・『シリーズ はじめてみよう 2 スーパービジョンのはじめかた：これからバイザーになる人に必要なスキル』2019 年</li> </ul>		

## ゼミナール概要

キーワード：医療福祉、医療ソーシャルワーク（MSW）

### 目的：

患者・家族の抱える経済的・心理的・社会的問題が複雑化している現在、その解決・軽減のために活動する医療ソーシャルワーカー（以下、MSW と略）の役割の重要性も増し、業務内容も拡大しています。しかし、現実には MSW を配置していない医療機関や、配置されていても適切に機能していないケースもあり、患者・家族のニーズに十分に応えられているとは言い難い状況も散見されます。本ゼミでは、そのような MSW の実際を学ぶことを通して、

- （1）患者・家族の生活にあらわれている医療福祉問題を具体的にとらえること
- （2）それらの問題に関わる制度・政策の実態をさぐること
- （3）患者・家族の生活問題の解決・軽減に資する援助（特にソーシャルワーク）のあり方を考えることを目指します。

### 授業計画(内容、方法等)：

ゼミ活動の内容・方法・スケジュールの詳細は、話し合っ決めていきたいと思ひます。あくまでもゼミ生による自主的・主体的なゼミ運営を期待します。ただし、大まかな活動目標として、以下の取り組みを提示しておきます。

- （1）3 年次前期に文献学習を行なった上で、保健医療機関（MSW 部門）への訪問学習を行う（医療専修模擬カンファレンスの準備も兼ねる）
- （2）3 年次後期から、ゼミ・テーマの下）に各自が学習テーマを設定し、卒業研究の計画を立てる
- （3）3 年次の春休みにはゼミ合宿（もしくはゼミ学習会）を行なう
- （4）4 年次の夏季までに、保健医療機関での実習（正課、課外は問わない）、フィールド・ワーク等に取り組む
- （5）4 年次には 2 年間の総まとめとして卒業論文の作成に取り組む
- （6）ゼミ生全員が学習（研究）計画および学習（研究）成果の報告の機会を持つ

この他、ゼミ生の立案・運営による企画（MSW または関係職種、患者・家族等によるゲスト講義や、患者・家族の当事者団体の活動への参与、事例検討、ロール・プレイ、ディベートなど）も随時取り入れていきます。

なお、卒業論文の作成と、保健医療現場での実習もしくはフィールド・ワークは必須と考えてください。

また、MSW に必須のチーム医療・多職種連携を学ぶ機会として「地域マネジメント実践Ⅲ」（藤田医科大学アセンブリⅢ）等の IPE プログラムにも出来る限り参加して頂きたいと思ひます。

その他、MSW 団体主催の研修会や患者会活動等の情報を随時紹介しますので、積極的に参加してください。

### 使用テキスト：

ゼミでの話し合いで決定します。

## 担当教員からのメッセージ

総合病院の MSW、精神科診療所（アルコール・薬物依存症等の嗜癖問題の専門治療機関）の MHSW（現在も週 1 日継続中）の経験を皆さんのゼミ活動のサポートに活かしたいと思ひています。

MSW（MHSW）を目指している人や、本気で医療福祉を学びたいという人を歓迎します。

副次的な目標になりますが、ゼミ活動を通して、これまでに養ってきた読む力・考える力・書く力・表現する力・他者と協働する力などの力量を十分に発揮すること、さらに高めることも目指したいと思ひています。これらの力は、保健・医療・福祉の現場で専門職として働く場合にも、当然必要とされるものです。